



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

チュニジア：野党指導者暗殺で抗議デモ、内閣は総辞職を発表

2月6日朝、チュニジアの野党指導者シュクリー・ベルイードが、首都チュニスの自宅近くで射殺された。現在、内務省・警察は犯人を捜索中である。同人は世俗野党連合「人民潮流」の幹部で、イスラーム主義的なナハダ党、および同党を中心とする連合政権に批判的な政治家であった。

チュニス他で抗議発生、警察と衝突

ベルイードの妻はナハダ党の暗殺関与を主張しているが、真偽は不明である。ナハダ党のガンヌーシ党首は、同党の関与を否定した。暗殺直後から、チュニスやシーディ・ブズィードなど複数の都市で数百～数千人規模の抗議デモが発生し、ナハダ党批判、政府打倒が叫ばれている。警察は催涙ガスで対応した。これまでに警察1名の死亡が報道されている。

政府・野党の反応

同暗殺事件を受け、マルズーキー大統領は急遽フランス訪問日程を短縮し、カイロでのイスラーム諸国協力機構首脳会合への出席をキャンセルした。ジバーリー首相は、「これは政治的暗殺であり、チュニジア革命の暗殺である」と同暗殺事件を強く非難した。また、内閣総辞職および非党派的な挙国一致内閣を組閣し、早期に選挙を実施すると発表した。

一方、野党は同暗殺事件の責任は政府にあると批判した。また、野党4党（共和党、行進党、労働党、チュニジアの呼びかけ党）は制憲議会からの脱退を発表し、7日にゼネストを呼びかけた。

(金谷研究員)